

🍁 涸沢で日本一の紅葉と奥穂高岳 3190mからの展望を楽しむ 🍁

(報告) 深澤 裕

◎山行期日：2022年 10月9日(日)～13日(木)

◎メンバー：井上和芳 深澤裕 (L)

コロナの感染が続く中、感染のリスクを下げながら楽しめる山行はないかと考えマイテントでの山行はどうかとシリウス山行を企画した。井上さんがエントリーして下さった。感謝だ。井上さんは小屋泊まりでの参加だ。

私は10月7日に熊野古道トレッキングを終え帰宅した。その日、東京は12月並の寒さだった。涸沢ヒュッテに電話すると小屋の周りは曇りで北穂高岳や奥穂高岳には雪が積もっているとのこと。雨や雪のため中止という選択肢もあったが、涸沢の紅葉を見に行きたいという思いが強く、アイゼン・ピッケルと雪山の装備をして出かけて行った。

10月9日(日)井上さんと午後2時に明神館で待ち合わせた。雨が降りはじめたので私は徳沢園に行き、まずテントを張り、また明神館に戻り「嘉門次小屋」で井上さんと吉田古道以来の再会を祝い、祝杯を挙げた。雨が強く降り始め、酔いも醒めそうだったが徳沢園のテントまで歩き、心地よく眠れた。ここのテント場は最高だ。



(徳沢園のテント場)

明神館は上高地で最も古い宿だそうだ。私はいつも通過地点としてしか考えていない宿だった。昔、釜トンネルが無かった頃は、上高地には島々から徳本峠を越えて入るしかなかった。そうすると峠の下の明神館が唯一の宿だったのだ。Wウェストンもここに泊まっていたそうだ。当時は嘉門次をガイドに雇って槍ヶ岳を目指した。

10月10日(月)は朝から激しい雨。本日はテントで停滞。昼頃雨の中、井上さんが徳沢園にやってきた。午後一緒にピッツアと赤ワインで豪華なブランチ。この日はゆっくりと旧交を温めた。

10月11日(火)昨夜は満点の星。満月が輝いていた。やっと晴天になった。明神岳に朝日が当たる。6時にテントを撤収し珈琲を飲む。7時30分。いよいよ涸沢に向かう。4年ぶりの涸沢だ。ワクワクする。途中、家族のサルが松ぼっくりの実を食べている。食べかすがトレイルに散らばっている。全く人間に動じない。慣れている。午後1時、涸沢ヒュッテ着。横尾谷の紅葉が美しい。黄色が目にも痛い。ナナカマドの葉は枯れているが赤い実が輝いている。



(涸沢の紅葉)



(涸沢テント場)



(ナナカマドの向こうに大天井岳)



(ナナカマドの実)

暫し休んでテントを張る。テントの受付にコンパネが残っていた。この板を敷くと敷かないのではテントの居心地が全く違う。何とかゲットした。張っていたらテントのポールが折れた。幸い隣のテントの方が修理用のリングを貸してくれた。有り難い。これで何とかテントを組み立てた。感謝、感謝だ。ここも最高のテント場だ。テントは 200 張りほどか。ガラガラだ。テント宿泊代は一泊 2000 円。コンパネが一泊 500 円だ。

井上さんに聞くとヒュッテは一畳に一人だそうだ。私が 20 年以上前に紅葉の涸沢ヒュッテに泊まったときは一畳に 3 人も詰め込まれ辟易した。でも一畳一人なら泊まっても良いかもしれない。素泊まり 9000 円。朝食 1500 円、夕食 2500 円だそうだ。小屋は 300 人ほどで満員だそうだ。井上さんとテントの中から大天井岳 2921m を望みながらウイスキーのお湯割りを頂く。山で呑む酒は旨い。極楽極楽。

10 月 12 日 (水) 6 時 30 分。東の空の雲が厚かった。朝日が出ない。 Morgenrot を見ることができず残念。20 年前、初めて涸沢で Morgenrot を見たときは感動した。奥穂高・北穂高の稜線がオレンジ色に染まりキャンプサイトが輝いた。約 5 分ほどのショータイムだったが忘れられない思い出。

今日は奥穂高岳をみざして登る。ザイテングラートを歩くのは 6 年ぶりだ。雪は殆ど溶けている。穂高岳山荘に着くと若干積雪が残っている。鎖や梯子をよじ登りながら奥穂高岳 3190m。10 時 30 分着。久しぶりに良い汗をかいた。2018 年 9 月に井上さんと一緒に登った笠ヶ岳 2897m が立派に西前方に見える。槍ヶ岳 3180m が独立している。大キレットも見え、北穂高岳が堂々としている。前穂高岳 3090m の向こうに雲海が広がる。その向こうに南アルプス、左側に富士山のシルエットが存在している。

上高地側に目を落とすと霞沢岳 2645m が独立している。立派な山だ。焼岳 2444m からは少し噴煙がたなびいている。ジャンダルムの上には人が 2 人立っている。曇りだが最高の展望に酔ってしまった。



(槍ヶ岳)



(笠ヶ岳)



(霞沢岳)



(前穂高岳の向こうの雲海。南アルプスと富士山)

30分近く贅沢な展望を楽しんだ。山頂には10人ほどの登山者がいた。山頂の祠は新しく輝いている。皆さん晴れ晴れとした表情だ。

下山は慎重に降りる。登ってくる人に話を伺うと「涸沢ヒュッテや涸沢小屋が満室なので穂高岳山荘に泊まる」という方の多いこと。朝、徳沢園から登ってきたという人もいた。15時に涸沢ヒュッテに無事到着した。井上さんと初めて一緒の奥穂高岳登頂を祝って、テラスで涸沢ヒュッテワインの白をボトルで頂く。これは塩尻市の井筒ワインがシャルドネを使って仕込んだ辛口のワインだ。フランスパンにスパムとマスタードをたっぷり載せて頂く。登山後の疲れが心地よい。

10月13日(木)テントを撤収し6時25分発。本日もモルゲンロートを見ることができず残念。曇天だった。隣にいた70代の方が今年の9月28日に撮ったモルゲンロートの写真を見せてくれた。迫力のあるオレンジが輝いていた。この方は年に2~3回涸沢に来るそうだ。素晴らしい。

快調に下山を続ける。本日も登ってくる登山者の多いこと。徳沢園は黄色の葉の色が鮮やかになっていた。テントの数も20張り以上ある。午後1時、上高地(小梨平)に到着し、ここで解散した。私は5日ぶりにキャンプ場の風呂に入り、さっぱりして帰宅のバスに乗った。

今回、天気が心配だったが3日間は晴れたので、涸沢の紅葉を楽しむことができた。モルゲンロートを見るができなかったが次回の楽しみになった。6年ぶりの奥穂高岳登頂ができ、体力をつけることの大事さを再認識した。日頃のトレーニングの成果だろう。重い食糧とテントを背負い、4泊のテント生活ができ充実した。有意義だった。今度はGW頃の残雪の涸沢や夏の涸沢にも訪れてみたいものだ。



(奥穂高岳から涸沢岳と槍ヶ岳の展望。人物は同行メンバー)

《コースタイム》

◆10月9日(日) 雨

深澤：上高地B T 12:00—明神館・集合 14:00—徳沢園テント泊 1400円 (歩行約3時間)

井上：上高地散策—明神館泊 13000円

◆10月10日(月) 雨

深澤：徳沢園テント泊 1400円

井上：明神館—徳沢園泊 13000円 (歩行約1時間)

◆10月11日(火) 晴

徳沢園 7:30—横尾 8:30—澗沢 13:00 着 (歩行約5時間)

深澤：澗沢テント泊 2500円

井上：澗沢ヒュッテ泊 13000円

◆10月12日(水) 曇

澗沢 6:25 発—奥穂高岳 10:30 着—澗沢 15:15 着 (歩行約8時間)

深澤：澗沢テント泊 2500円

井上：澗沢ヒュッテ泊 13000円

◆10月13日(木) 曇

澗沢 6:25 発—上高地B T 13:00 着・解散 (歩行約6時間)

(了)